

平成 24 年度ヒラメ稚魚分布密度調査結果 (日本海) について

当研究所では天然ヒラメの稚魚分布密度調査を昭和55年から行っており、平成24年は7月18日、8月20日、9月12日に桁網 (水工研Ⅱ型) を用いて日本海のつがる市沖8点で調査を行いました (図1)。ヒラメの分布密度は桁網効率を0.28とすると0~352尾/1,000m<sup>2</sup>の範囲にありました (表1)。採捕したヒラメの全長組成は7月18日に水深5mで30mm台、水深10mで20~30mm台、8月20日に水深5, 10mで30~40mm台、9月12日に水深5mで50mm台、水深10mで60mm台が主体となっていました (図2)。水深別平均分布密度の最高値を着底指数とすると、平成24年は201と平均的な水準でした (図3)。これまでの調査結果から、日本海では着底指数と翌年1歳魚の資源尾数との間に正の相関が見られることから、2年後に漁獲対象となる本年生まれの資源は平均的な水準と考えられます。

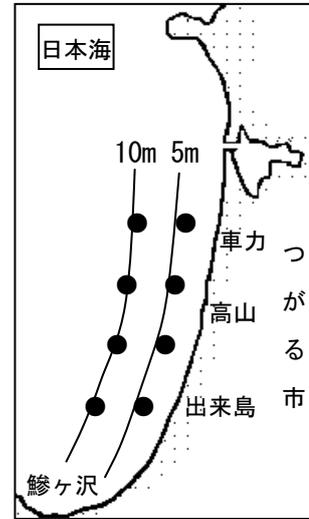


図 1 調査地点

太平洋海域でも同様の調査を行っていますので、調査終了後結果をお知らせします。

表 1 ヒラメ稚魚分布密度

日本海	(尾/1,000m <sup>2</sup> )									
	水深 5m				水深 10m				5m 平均	10m 平均
調査月日/調査点	出来島	高山南	高山北	車力	出来島	高山南	高山北	車力		
7月18日	144	116	6	113	52	69	107	71	95	75
8月20日	191	352	192	68	18	35	44	16	201	28
9月12日	65	28	50	11	0	0	9	18	38	7

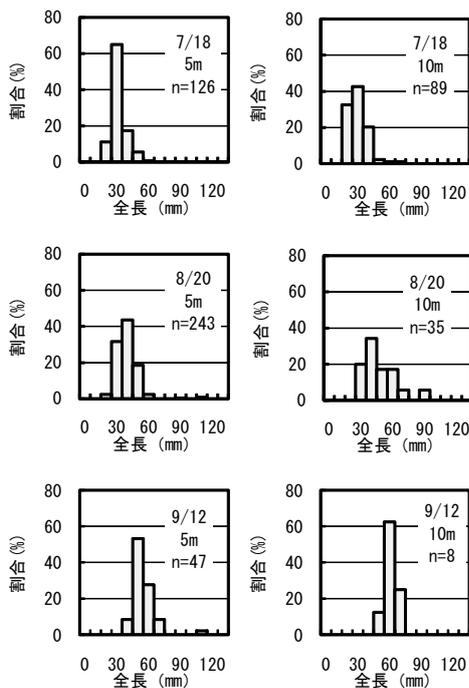


図 2 採捕したヒラメの全長組成

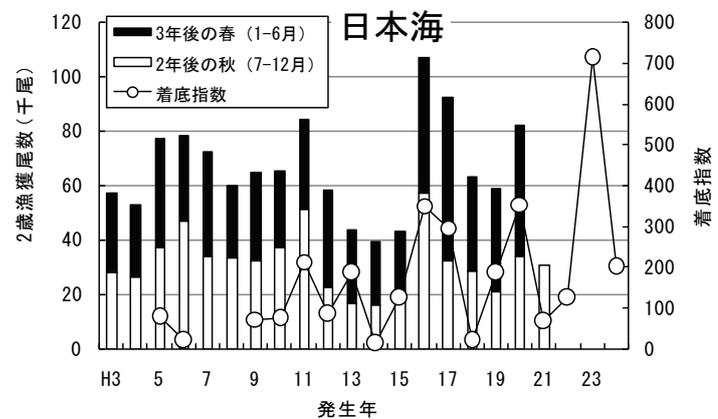


図 3 日本海のヒラメ着底指数と2歳魚漁獲尾数の推移